

令和3年度 卒業年次アンケート分析結果の報告

1. 学習面

【英語コミュニケーション専攻】

英語コミュニケーション専攻の卒業生より、「先生と学生の距離が近く、先生の面倒見もよく、学生同士も仲が良い。」という意見を多くいただきました。安心して学べる環境はとても大切です。また、授業内外で英語によるコミュニケーションを図る機会がたくさんあり、英語力向上の機会が充実しています。そして専門ゼミでは、異文化理解、国際社会理解、英語学、英語教育、英語圏文学、第二言語習得など、専門性を活かした研究の場が提供されています。これらの切磋琢磨しあう専門的な学びは思考力と応用力を着実に培い、卒業後にも役立つかけがえのないものとなるでしょう。私たちは、学生一人ひとりの声に耳を傾け、向き合っていきます。英語コミュニケーション専攻で、一緒に学びましょう。

【人間関係専攻】

常に高評価を維持する人間関係専攻学科ですが、COVID19 でオンライン授業が続いた今年度のアンケート結果は基礎ゼミと専門ゼミの教員指導力の二点に関する課題がより明確になりました。基礎ゼミでは「テキストが分かりにくい」というコメントが書かれていますが、教科書の改訂については終始主張しているにもかかわらず一向に進まず、2022 年度も改善されないのは明白です。テキストの不備は授業内容が教員によって大きく違うことにもつながり基礎ゼミの本来の目的も達成できないであろうと思います。また教員の偏見については人間関係専攻全学生が集まる場で正しい方針を提示することで解決可能であると思われませんが、卒論における教員の指導力不足は対応することができません。専門ゼミ選択の際に教員の論文数や研究状況などを明確にするようにしましたが、そもそも学生自体に論文が書けない大学教員を想像できないのか、論文指導を重要なことと考えていないのかゼミ選択に反映されていない気がします。今後は専門ゼミ担当教員が「論文力こそが大学生の社会人基礎力である」ぐらいの姿勢で臨む必要があると感じました。

【心理学類】

学修に関することや進路に関することについて、すでにさまざまな機会や手段によって情報提供を行っているが、一部の学生においては、提供された情報をうまく受け取ることができないと考えられ、対応としては、そうした可能性を想定しながら、個別の面談などの機会を活用して、間違いなく情報を伝達していく取り組みをしていくことが考えられます。

【住空間デザイン学類】

専門科目を中心とした学類のカリキュラムや教育内容について、全般的に肯定的な回答を得ました。その一方で、「コミュニケーション力」や「社会性」が十分に身につけていない

と考える学生に対しては、授業以外にも（状況に応じて）卒業制作の作業協力など、他学年との交流の機会を設けることで、皆さんの学習意欲を高めてもらいたいと考えます。専用教場における自習の再開や、フィールドワーク等の学外活動の実施によって、みなさんの自主的で積極的な学びの機会を増やしていきます。今後も授業方法や内容について学類教員の間で話し合い、学びの質をより高めるための改善を行っていきます。

【観光文化学類】

4年間の学びの成果が表れているアンケート結果でした。特に、幅広い教養力と社会性を身に付けられました。専門教育に関しては、ゼミ活動が充実していたと高評価でした。自由記述に、ゼミを2年次からやりたいという希望がありましたが、検討課題にしてゆきます。また、ブライダル関連の科目が欲しいという提案がありましたが、新年度から始まるカリキュラムでは開設しています。実習科目もさらに充実させてゆきます。「友人との交流を深めることができた」という項目では、全員が「とても/ある程度そう思う」と回答しており、充実した大学生活であったことが分かりました。観光文化学類開設初年度だったため、教員も不慣れな面があり、専門科目の履修についての説明が不十分で分かりにくかったという指摘がありました。今後は分かりやすい説明を心がけます。

【健康栄養学科】

健康栄養学科の学生においては、学科（養成施設）としての対応（専門科目の内容、先生方の学生への対応、国試験対策など）には満足している者が多いことが、集計結果やご意見からも伺えました。今後も、この結果に満足せず、数少ない批判の意見にも耳を傾け、先生方で努力してまいりたいと考えています。

【看護学科】

看護学科での学びは、必修科目の割合が多く、時間割的にも余裕がないという特徴があります。そのため、学外活動や自主活動にはほとんど参加できず、「よくわからない」という回答が多数を占めました。また学修支援センターや学生相談室・保健室といった学生生活支援の部門について「よくわからない」という回答も多くみられました。学生生活を彩り豊かにする一助として、あるいは、必要時に適切な部門からの支援が受けられるように、今後はより積極的な情報提供をしたいと思います。

全体としては、卒業生は4年間の学修で社会性や専門力をはじめとする力がしっかり身についたことを実感できたと回答していました。在校生の皆さん一人ひとりが主体的に学びを積み上げていくことができるように、授業科目だけではなくアドバイザー担当教員も学生生活をサポートしていきます。

2. 学生生活面

【教務課から】

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面授業の実施数には学部

(群)により、大きな差があったものの、授業内容や教育方法、学修成果では、半数の学生が「満足」と解答しています。問2「本学では、建学の精神を実現するため、面倒見のよい教育を目指して「テーラーメイド教育」という取り組みを行っています。その取り組みについてあてはまるものをご回答ください。」の「4 GWE の Classroom について」では、「満足している」の割合がいずれの学部(群)も6割を超え、「とても満足している」の割合を加えると9割の学生が満足しており、2021年度においても、対面授業は遠隔授業に比較して少ない状況ではあったものの、一昨年前から導入した Google Workspace for Education (GWE) を、遠隔授業(オンデマンド型)以外の対面授業においても活用し、先生方の遠隔授業に対する工夫が評価されていると思います。一方で、教員によって Classroom の操作を誤ったことでのトラブルなどについてのコメントもあり、GWE を利用した授業が2年続いたことで、学生が遠隔授業に質の高い学びを求めていることが伺えました。

「テーラーメイド教育」や「基礎ゼミ」についても、各学部(群)の満足度は9割を上回っていますが、「本学での学生生活支援について」では、設備、利便性については、否定的な意見が多くあり、特にインフラについては、改善の必要があると思います。

授業の履修や試験、補講や休講、成績に関する情報の提供については、多くの学生が満足と解答しており、これは KOMAJO ポータルが機能していることが表れていました。

【学生支援課から】

今年度は昨年度同様にコロナ禍の状態に対面と遠隔の授業でしたが、ほぼ例年と同じ学業的な満足度はある程度高いのに比べ、学生生活における満足度は低かったです。

しかし、学生支援関係は対面での学生対応がまだまだできませんでしたが、利用学生には満足してもらえる対応ができていたのではないかと感じられました。

今後も適切で明確な回答を丁寧に対応することを心掛けていきたいと思います。

特に施設設備への不満は高かったです。学食のメニューやキャンパスショップの品揃え、大学へのアクセス手段についての満足はまだ低い状況でした。各部署で年々改善はしているが、学生にとって情報を得やすい環境を整えられるよう心掛け、更なるサービスが必要と思われれます。

【進路総合センターから就職支援について】

学生生活支援の「就職活動や資格取得のサポート」について、集計結果のうち「とても満足している」と「満足している」の項を合わせて、改組後1期生となる人間総合学群では68.9% (前年比-2.8%、人文学部との比較では3年前から続落)、人間健康学部では77.9% (同+11.7%) となっています。人間健康学部では、昨年の支援内容・ポイント周知の問題点が改善されたところもあったかと思います。人間総合学群の原因と対策を引き続き検討していきたいです。また、1期生となる看護学部では、72.1%となっており、ここを基準点として看護学部と連携しより良い支援に結びつけていきたいと思います。

引き続きコロナ禍のもとの就職支援となった今年度は、個別相談に関しては、対面、TEL、メール、ZOOM、MEET での対応を、またセミナーに関しては、対面、ライブ、オンデマンドで

の対応を外部環境に応じて行いました。セミナーについては、コロナ禍2年目の対応を通じて、その目的に応じて対面、ライブ、オンデマンドを使い分けていくことがより効果的であると実感することとなりました。

【学修支援センターから】

学修支援センターは、本学の「テラーメイド教育」の一環として、皆さんの学修・進路ニーズに対応した「学力」養成と資格・検定対策の支援を行います。進路実現に向けて、自分合った学修目標を設定し、早期にスタートしましょう。

各種教科の学修や資格・検定対策の講座を用意しています。学修相談も積極的にご利用ください。当センターでは、学生の目標や学修状況に合った「学びのきっかけ」づくりを支援します。

講座スケジュールや参加方法などは、「koma jo ポータル」で随時案内します。

当センターは、皆さんの学修の「コーチ」であり、「ナビゲーター」でもあります。どうぞ、気軽に参加し、進路実現に向けた「学び」を進めてください。

【図書館から】

・荷物の持ち込みについて

昨年度に引き続き、入館に際しバック等を入口のロッカーに入れることとしました。図書館を利用する学生の方には、ご不便をおかけしたと思いますが、新型コロナウイルス感染症感染防止対策の一貫として皆さんの安全・安心のための措置であることをご理解ください。次年度以降は、本年同様に感染防止に努め、入館時にカバンをロッカーに入れずに入館できるように変更する予定です。